

軍 旗



0586

勝山聯隊軍旗の歌

- 一 戦ふ毎に勝山の 城にかかけて擧ある
 我聯隊の軍旗こそ
 世に尊くも畏けれ
- 二 秋の亂や秋月の 影さへ暗き小夜中に
 軍旗の光嚴めしや
- 三 西南急を告げし時 植木の驛の激戦に
 軍旗は屍に埋れしが
- 四 事を鎮めし殊動をば 嘉し給ひて大君の
 軍旗は他に比類なし
- 五 雑の林に風たてば 梢の鳴を静めんと
 樹てし功績も幾そ度
- 六 東の海に波風を 捲き起したる黄龍を
 皇威を輝やしあるはまた
- 七 東亞の空に妖雲を 掻き亂したる荒鷲の
 世に照らしたる軍旗かも
- 八 旭に匂ふ櫻咲く 我日本に韓國の
 爲せし功績はかくれなし
- 九 懸軍萬里シベリヤの 胡砂吹く風に長驅して
 譽はしるし我軍旗
- 十 春なほ浅き江南に 鎖す暗雲拂はんと
 御稜威に勝かぬ草もなし
- 十一 東瀛の野に屯せば 綠林聲も静まりて
 軍旗輝き民安し
- 十二 あな長しや尊しや 戦ふ毎に勝山の 城にかかけし軍旗こそ
 千代萬代に輝かむ

長 隊 聯 代 歴



代六第 代四第 代三第 代二第
 喬義田友 昭惟木天 家保典 典希木乃



代十第 代九第 代八第 代七第
 世常原飯粟 介邦滿益 義弘巻三 則宗崎川



代四十第 代三十第 代二十第 代一十第
 輔行宿宇 殿主地菊 作平下竹 敬信村今

0588

長 隊 聯 代 歴



代八十第 代七十第 代六十第 代五十第
 平岩 澤井 惣 喜 崎 高 武 邦 森 郎 次 辰 郷 東



代二十二第 代一十二第 代十二第 代九十第
 郎 太 永 鳥 清 方 土 郎 太 龜 留 嗣 武 直 橋 高



代六十二第 代五十二第 代四十二第 代三十二第
 郎 定 田 栗 兼 俊 宅 三 郎 次 留 色 一 規 子 金

0539

歴代隊長



第十三代
津田美武

第九十二代
鈴木貞一

第八十二代
今村野次

第七十二代
柳重治



第十三代
外山立治

0590

戰死將校



佐少 佐少 尉少 佐少
三秀田窪 貞正岡花 太維林原河 枝秀松古



尉中 尉大 尉大 佐少
義敬辻 夫一來加 吉平田於 郎八岡平



尉中 尉大 尉大 尉大
郎四口山 郎次松尾松 夫梅田村 助之五原宮

0591

校將死戰



佐少 尉中 尉中 尉中
郎八堀 大良保神 朝輝岡松 郎太長田福



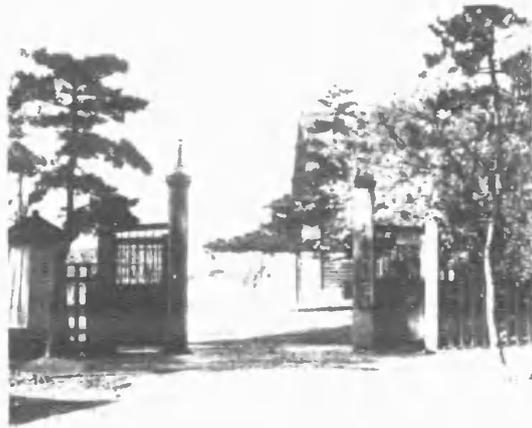
佐少 尉中 尉大 佐少
郎太健本砂 華虎江深 郎次幸生爪 環三斐許



佐少 尉大 尉中
郎治民東 華秀津野 郎次熊田藤

0592

門 表



舊
兵
營

景 全



0593

0594

門 表



新
兵
營

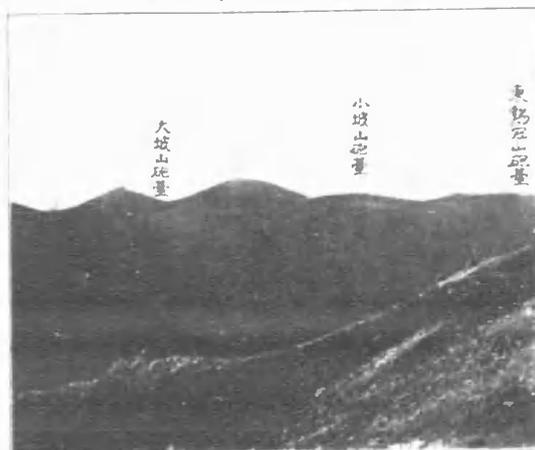


景 全



庭 營

(一) 佛の場戦



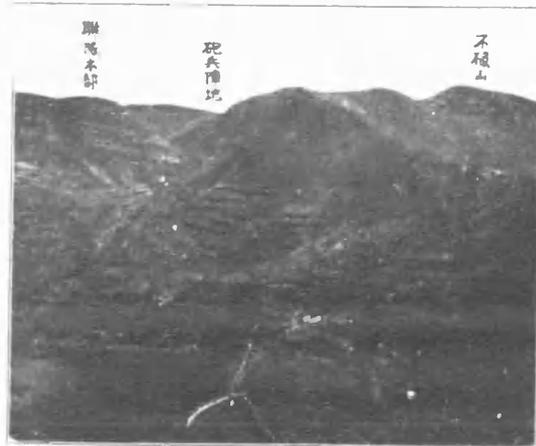
東鶴冠山砲臺



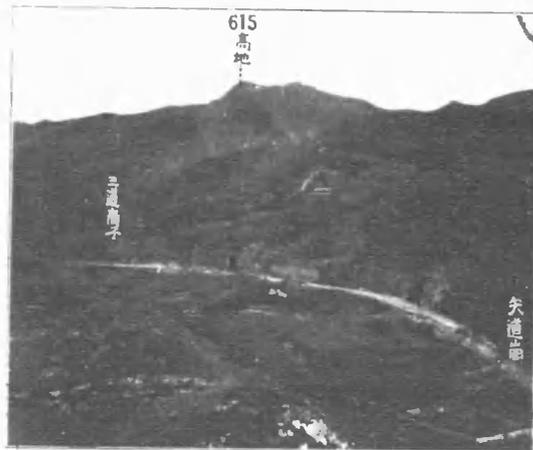
本溪湖附近其一

0595

戦場の佈



二の共 近 附 湖 溪 本



三の共 近 附 湖 溪 本

0596

天祐傳

0598